

# 1. 構想の概要

**【構想の名称】**

世界をキャンパスとして展開する広島大学改革構想

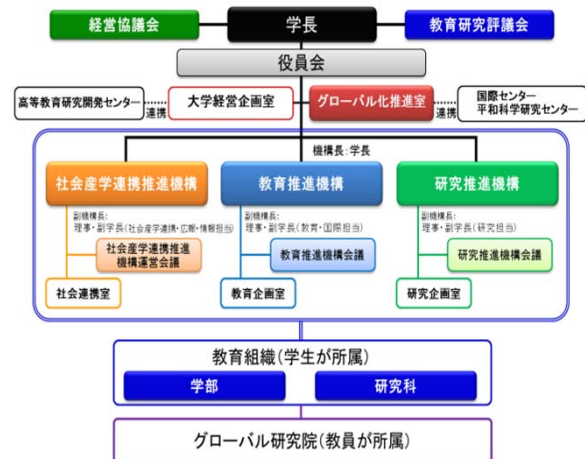
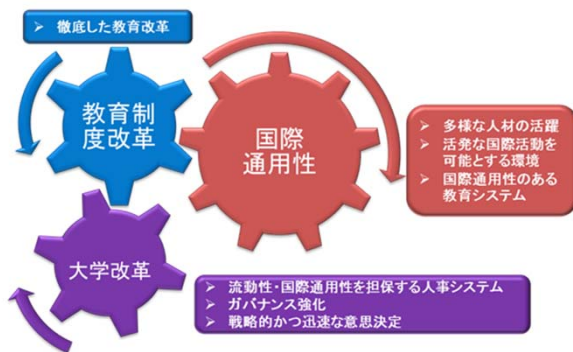
**【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】**

広島大学は、教育力と研究力を両輪とし双方を強化するため、改革の三つの歯車（制度改革によるガバナンス強化、教育制度変革、国際通用性の確保）を連動させ、Top Global Universityになる。

**【構想の概要】**

「絶えざる自己変革」という大学の理念に従い、教育・研究・社会貢献実績に関する徹底した情報収集を行い、集積された客観的ビッグデータから、本学全体の特徴、強み、また弱みを明らかにするとともに研究者の個々人の顔が見える分析を行ってきた。

また本学独自のA-KPIを開発することによりトップ100大学への達成度をモニタリングする仕組みを構築すると同時に、教育と研究の最適配置を行う仕組みを開発してきた。これらの徹底したまた独自のIRに基づき、将来にわたり本学が達成すべき具体的数値目標及び定性的目標を戦略的に設定するとともに、改革の三つの歯車を連動させ、大学改革を進めることにより、予測不能な人類の課題解決に資する人材を育成する。



## 【10年間の計画概要】

### 🌟 制度改革によるガバナンス強化

#### 1. A-KPI(成果達成型重要業績指標)導入・実施

大学全体・各学部等の教育・研究面全般のパフォーマンスをA-KPIにより客観的にモニタリングすることで、役員会による教員・学内資源の最適配置や教職員の意識改革・学内文化の変革を実現する。

#### 2. 学長・役員会による迅速な改革実施

教員組織と教育組織・研究組織との分離、役員会による人事など学長の戦略的リーダーシップの強化を図る。

A-KPIによる大学全体のパフォーマンスをモニタリングするほか、国際指標を重視した教員個人評価制度を実施することにより、大学運営体制はもとより大学全体の国際化・改革を達成する。

### 🌟 教育制度改革

#### 3. 国際通用性の高い教育の提供

教育の国際質保証として世界的研究大学コンソーシアム(SERU)に参加するほか、階層的TA制度の導入やeラーニングポートフォリオやアクティブラーニングなどの活用により、質の高い学修時間を確保し、学生の主体的学習を十分に実現する。

#### 4. 世界に広がるキャンパスで自由に学べる教育システムの構築

留学の阻害要因を解決するため、産学官が協働して奨学金を新設し、クォーター制を導入する。またジョイントディグリー(JD)、ダブルディグリー(DD)プログラムを拡充する。教員採用時に国際公募を徹底することにより、教員の50%以上が外国人教員等からなる教員集団を構築し、英語で修了することのできるコースを全学部・研究科に拡充する。

海外サテライト・キャンパスを新設するほか、世界トップレベルの協定校等と研究交流を強化することで、教育システム改革を実現する。

### 🌟 国際通用性の確保

#### 5. 教育プログラム

国際通用性を確保した教育プログラムを実施するため、授業のナンバリングを行いプログラムの体系性を明らかにするとともに、シラバスを学習指導書的文書になるよう改編し、授業のレベルアップや改善ができるようにする。またGPAを基軸とした教学システムの体系化を行い単位の実質化と連動させる。さらに、教育の質保証のため、英国のQAA(Quality Assurance Agency)に範をとった本学の到達目標型プログラム(HiPROSPECTS)を推進するとともに、国際的質保証を行うため、アメリカのトップレベル研究大学のコンソーシアムを通じたHiPROSPECTSの国際的質保証評価を行う。

#### 6. 教員・学生

外国人等教員等を増加させ、またそれにより外国語授業数を高める。同時に、外国語を重視した入試の実施、バカロレア教育を受けた学生に対応した授業の実施、日本人学生の海外派遣、語学力の確保などの施策により、日本人学生のグローバル化を進める。

また、本学キャンパスにおける多様性を確保するため、外国人留学生の割合を全学生の約2割と設定し、この目標実現のため、教員・コースの国際化、海外での留学生のリクルーティング、交換留学制度のさらなる拡大、短期受入サマープログラム等の拡大等を行い、多様化を促進する。このようなグローバル・バリアフリーなキャンパスが実現することにより、教育の質的転換が起こり、日本人学生の語学力向上、日本人学生の海外留学の増加等改革の歯車が動き始め、これらの仕組みを用いることにより日本人学生をグローバル人材に育成する。

## 【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

### (ガバナンス改革)

教員個々人の能力を組織として活用するため、ガバナンス強化により学部・研究科をこえた教員の戦略的配置を行う。このような教員配置は、教員組織と教育研究組織の分離、本学独自の成果指標であるA-KPIを活用した客観的指標・目標、また学長のリーダーシップにより実現可能性を担保する。さらに、変化する社会に組織を柔軟に対応させるため、持続的に教育組織の改組・再編を行うとともに、大学院の質的・量的充実をはかり資源の再配置を行う。

### (教育改革)

入学試験において、外部試験を活用し、AO入試など多面的な試験を実施する。また附属学校群を含む高校との高大連携を推進する。さらに、クォーター制導入により柔軟な入学・卒業の時期の設定を行い、世界中の異なる学事暦に対応できる体制を構築するとともに、集中した授業実施により学びの質の向上や深化を確保する。在学中の学びとして、秋入学の英語で完結する学位プログラム、全ての学部・研究科に英語で修了できるプログラム、夏学期を利用したサマースクール、集中講義型の教育プログラムの実施、またJD、DDの実施等多彩なプログラムの提供により学生の選択肢をひろげるとともに、HiPROSPECTSの推進により教育の質を確保する。また、海外のサテライトキャンパスにおいても教育を提供する。アカデミック・パスの選択としては、早期卒業、5年一貫制課程での博士号取得、また「副専攻プログラム」、「特定プログラム」等、自らの進路に合わせた学修を可能とする。

## 【海外の大学との連携の推進方策】

UCバークレーが中心となり設立され、アメリカのトップレベル研究大学またオックスフォード大学などからなる国際コンソーシアムにまで発展しているSERU(Student Experience in the Research University)に参加した(平成26年度加盟)。SERUに対しては本学からSERU加盟校による厳格な相互機関評価また国際的な認証評価に値する事業を実施することを提案し、その結果、「SERU-International Consultancy(仮)」事業として、UCバークレーを中心として実施することが認められた。本学は、提案校として外部評価の指標や基準の構築の際に、サブリーダー的な役割を果たし、国際的視点からHiPROSPECTSの質保証評価を行う。

## 2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○留学フェアの実施

優秀な留学生獲得のため、日本国内外で実施された留学フェアに6回参加するとともに、3月にインドネシアにて本学独自の留学フェアを開催した(参加人数306人)。

##### ○海外拠点整備・新設のための連携機関との交渉・連絡調整業務の実施

海外拠点候補地としてのカンボジア、メキシコ、オランダ等で調査・調整・交渉を行った。



〈 留学フェア 〉



〈 FD研修 〉

#### ガバナンス改革関連

##### ○グローバル化推進室の機能強化

スーパーグローバル大学創成支援事業を円滑に推進するために、担当副学長を室長とするグローバル化推進室を設置した。また、大学の国際的評価、英語によるプログラム実施、海外大学との連携など、教育の国際化に関連した課題について、国内外で調査を行うと同時に、シンポジウムを行った(文部科学省・メルボルン大学副学長、北海道大学副学長など参加)。

##### ○経営協議会などの国際化

経営協議会に海外の有識者(大臣経験者)を構成員として迎えるための交渉及び受け入れ準備を行った。

##### ○OA-KPIの活用・個人評価

役員会主導の人事に活用するために、A-KPIの導入を図った。また、研究・教育実績を給与に反映させる教員の個人評価を10月から実施した。

#### 教育改革関連

##### ○制度改革の準備

クォーター制:平成27年度より学事暦を変更し、全学的にクォーター制を実施するための準備を行った。  
ナンバリング:講義のレベルや内容等に従って、カリキュラムポリシー上で理解しやすいナンバリングを平成27年度に各授業科目に再付与をするための準備を行った。  
シラバスの英語化:ナンバリングを導入することでシラバスに記載すべき内容が揃う。平成28年度までに、その内容の英語化を全ての学士課程授業科目と大学院授業科目において実施するための準備を行った。

##### ○FD研修の実施

オーストラリアの協定大学から教員を招聘し、英語による授業方法に関するFD研修を実施した。また、英語による授業・コース展開をテーマとして行ったシンポジウムに教員を参加させ、FDの機会とした。

##### ○階層的TA制度の構築準備

階層的TA制度に関して、他大学の情報収集を行うとともに、今後の制度構築作業の工程と実施体制について検討を行った。

##### ○授業録画システムの設置・ラーニングポートフォリオ・オンラインシステムの改修

授業録画システムを導入し、反転授業が行いやすくなるweb配信ビデオを撮影する環境を整備した。また、一部部局で利用していたラーニング・ポートフォリオを全学的に活用できるよう、システムを改修した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○成果指標の学内周知

大学独自のA-KPIの設定については、役員会で承認(H26.7.28)するとともに、教育研究評議会(H26.11.18)に平成24年度、25年度の実績について報告し、成果指標の内容と達成のための努力目標を示した。また、部局の教職員にも、教員連絡会などでの説明を通じて内容を周知した。

### ○成果指標についての他大学教職員との意見交換会の実施

九州地区大学IR機構のメンバーと成果指標について意見交換を行い、大学経営を評価する指標の検討の一助とした。

### ○成果指標の達成状況

成果指標であるA-KPIは、(a) 授業担当、(b) 博士人材の養成、(c) SCI論文数、(d) 外部資金受入、(e) 国際性から構成されており、25年度との比較では、(b)、(d)、(e)は上昇し、(a)は下降しているが、合計では上昇しており、SGUでの取組も含めた各種取組により、目標値に近づいていることを示している。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組

### ○キックオフ会議実施

3月に「英語による教育プログラムの展開と課題」「グローバル競争時代における日本の大学の諸課題」について、メルボルン大学副学長、北海道大学副学長ら国内外から有識者を招き、パネルディスカッションを実施した。約100名の参加があった。

### ○SERU関係会議への参加

10月～12月に、大阪大学でSERU国内参加大学による打ち合わせを行ったほか、アメリカバークレーにて開催されたSERU会議で、教育の国際的質保証についての協議またSERUコンサルタンシーの構築について調整を行った。

### ○世界ランキング実施機関との意見交換

10月にロンドンのQSまたTIMES Higher Education等を学長・副学長が訪問し、ランキング上昇のための意見交換を実施した。



〈キックオフ会議〉

## 【海外の大学との連携の実績】

### ○国際的教育連携(JD/DDを含む)

10月～3月にかけて、JD・DDのパートナー大学を10校訪問し、プログラム開発に関する調整・交渉を行った。また、台湾の国立政治大学とは2分野でDD協定を締結した。

### ○国際的教育の質保証に関する連携

本学は、UCバークレーが中心となり設立され、アメリカのトップレベル研究大学(主に州立)のコンソーシアムとして、現在は海外の大学を含む国際コンソーシアムにまで発展しているSERU(Student Experience in the Research University)に参加した(平成26年度加盟)。SERUに対しては本学からSERU加盟校による厳格な相互機関評価また国際的な認証評価に値する事業を実施することを提案した結果、「SERU-International Consultancy(仮)」事業としてUCバークレーを中心として実施することが認められた。本学は、提案校として外部評価の指標や基準の構築の際に、サブリーダー的な役割を果たし、到達目標型教育プログラムの国際的視点から質保証評価を行う。

## ■ 自由記述欄

### ○シラバス・各種教務情報の英語翻訳の実施

教養教育科目のシラバスについては、100%英語化を達成した。

### ○スーパーグローバル大学創成支援事業の学内周知

教職員に対する学内説明会を2回実施したほか、学生向け学内説明会を6回実施し、学内での情報共有や事業推進についての意見交換を行った。

### 3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

#### ■ 共通の成果指標と達成目標

##### ガバナンス改革関連

###### ○ 学術院

平成28年4月から、大学教員の所属が従来の研究科・研究院などから「学術院」に移行し、学部、研究科、研究院、病院などの教育研究組織に配属されることとなり、平成27年度はその準備を行った。これは、重要な知的資源である教員の諸活動を大学の資源と捉え、最大限のパフォーマンスを発揮することがねらい。今後は、教員研究組織の枠を越えて、学長のリーダーシップのもとで全教員が大学の教育研究に取り組む新たな体制を構築することが可能となる。

この学術院は、専門分野で分類した35のユニットで構成され、すべての教員はいずれかのユニットにグルーピングされる。ユニットに基づいて柔軟かつ効果的な人員管理を行い、大学全体として教育研究の機能強化を図る。

###### ○ A-KPIの活用

大学独自の指標であるA-KPIを活用して、世界top100に向けて設定した数値目標の達成度のモニタリングを行い、目標値に近づいていることを確認した。

###### ○ 経営協議会などの国際化

経営協議会に海外の有識者(大臣経験者)を構成員として迎えると同時に、教育研究評議会に外国人教員枠を設けた。

##### 教育改革関連

###### ○ 制度改革

クォーター制:平成27年度より学事暦を変更し、全学的にクォーター制を漸進的に実施。

ナンバリング:講義のレベルや内容等に従ってカリキュラムポリシー上で理解しやすいナンバリングを、平成27年度に各授業科目に付与した(平成28年度には100%完成予定)。

シラバスの英語化:平成28年度までに、シラバスの英語化を全ての学士課程授業科目と、大学院授業科目において実施するための準備を行った(平成28年度には100%完成予定)。

###### ○ 階層的TA制度の構築

本学のTA制度を、大学院生がTAとしての経験を通じて研究以外の教育活動に関する能力・資質を身につけること、また、大学院生が教員の補佐をすることで、大学教育全体を充実させる制度に再構築した。従来のTA制度を見直し、活動内容や求められる資質・能力によりTAを3階層に分け、平成28年度からは新たなHirodai TA制度として実施される。本制度の下、階層レベルに合わせて段階的なトレーニングを行うことにより、専門分野の知識体系を俯瞰する力、教育活動への深い理解力や学習支援方法を身につけ、自立した教育者としても活動できるTAの育成を目指している。

平成27年度は試行的に2部局で階層的TA制度を導入したほか、各部局で説明会、研修会及びワークショップを開催するなど、学内周知に努めた。併せて、階層的TA制度に係るリーフレットを作成、配布することで、意識啓発を行った。

##### 国際化関連

###### ○ 留学フェアの実施

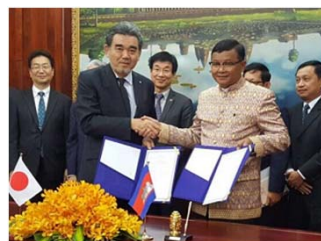
優秀な留学生獲得のため、SNSを利用した学生に対する直接のアプローチによる本学独自の留学フェアを、インドネシア及びベトナムのトップ大学の学生を対象に開催した(参加人数:インドネシア598名、ベトナム344名)。インドネシアについては、留学フェアに参加した学生のうち本学への留学を希望する者に対して、電話などによる本学研究科とのマッチングを行い、該当する研究科の教員が現地大学を訪問し、学生との面談を行った(72名が応募を検討と回答)。また、日本国内外で実施された留学フェアに6回参加した。

###### ○ 海外拠点整備・新設のための連携機関との交渉・連絡調整業務の実施

学長がカイロ大学学長とトップ会談を行い、大学間協定を締結するとともに、海外拠点をカイロ大学内に設けることとした。カンボジア並びにミャンマーの高等教育の発展に貢献するため、全国で初めて両国の教育省と学術交流・協力協定を締結した。カンボジア・ミャンマーでは拠点設置予定している。



カイロ近郊ギザにあるスフィンクス前で、越智広島大学長とカイロ大学長が記者会見  
記者会見には、香川剛廣 駐エジプト特命全権大使、エジプト考古大臣、エジプト高等教育大臣などが来賓として同席



カンボジア教育省ハン・チョン・ナロン大臣との調印式



ミャンマー教育省テイン・ウィン高等教育局長との調印式

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○成果指標の学内周知・活用

A-KPIの実績について、役員懇談会、教育研究評議会に平成26年度の実績について報告し、成果指標の内容と達成のための努力目標を示した。また、学内の教員に、よりA-KPIを理解してもらうために、全学情報共有基盤システム「いろは」の各教員のメインポータルに、本人のA-KPI実績の数値が確認できるように掲載するとともに、A-KPIの趣旨を記載し周知した。

### ○成果指標の達成状況

成果指標であるA-KPIは、(a)授業担当、(b)博士人材の養成、(c)SCI論文数、(d)外部資金受入、(e)国際性から構成されており、平成26年度と平成27年度の比較では、(b)、(c)、(e)は上昇し、(a)及び(d)は下降しているが、合計では上昇しており、SGUでの取組も含めた各種取組により、目標値に近づいていることを示している。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組

### ○SERU学生調査の実施

平成27年度は、本学の2学部を対象にSERU学生調査を試行した。SERUとは、「研究大学における学生の生活実態調査」のことで、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校高等教育研究センターが中心となり、ミシガン大学やミネソタ大学、大阪大学等を含む世界のトップレベルの研究大学に所属する学生の調査を行っている。この世界共通の調査に参加することにより、海外のトップレベルの研究大学と比較した広島大学のポジションを確認し、自己改善を行い、国際通用性の高い教育の提供を行っていく。



また、平成28年1月には、学内において理解を深めるために、「SERUワークショップ」を実施し、調査の意義やデータの活用方法について周知を図った。

ミネソタ大学におけるSERU学生調査の活用について説明するDr. Ronald Huesman

### ○NAFSA及びEAIEへの参加

NAFSAの年次大会にブースを出展し、本学職員が留学生向けプログラム等について広報活動を行った。また、EAIEにおいては、本学副学長が4つのセッションでの発表、また、セッション議長を務めるなど、積極的に本学の実績を発信した。

### 【海外の大学との連携の実績】

#### ○国際的教育連携

平成27年度には、本学学長が中国、インドネシア、エジプト、ミャンマー、カンボジアなどを訪問し、新たに16大学と大学間協定を締結するとともに、全国で初めて、カンボジア王国教育青年スポーツ省、ミャンマー教育省とも協定を締結した。

また、10月に台湾国立大学コンソーシアムの招待を受け、本学の6研究科の研究科長が台湾の6国立大学を訪問し、JD/DDプログラム開発に関する調整・交渉を行った。

これらの結果、平成27年度末には、本学の大学間協定数は合計172(41ヶ国、160機関)となった。部局間協定は新たに49協定締結し、合計307(49ヶ国、289機関)となった。

#### ○JD/DD

平成27年度には、新たに、中国・首都師範大学と共同大学院プログラムを設置した。本プログラムでは、学士課程は首都師範大学、修士課程は首都師範大学と広島大学とでDDを実施、博士課程は広島大学で教育するものである。定員は、学士課程100名、修士課程30名、博士課程15名。

また、海外のJD/DDの実情や、プログラム推進のために必要な情報を共有するため、学内セミナーを実施した。



首都師範大学に掲げられた共同大学院プログラムの銘板

## ■ 自由記述欄

### ○グローバル化推進室の機能強化

本事業を戦略的に推進していくための企画立案やデータ分析のため、UEAを配置した。